

時事新報定例
時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ
一 寄附金六圓
一 寄附金五圓
一 寄附金四圓
一 寄附金三圓
一 寄附金二圓
一 寄附金一圓
一 寄附金五角
一 寄附金四角
一 寄附金三角
一 寄附金二角
一 寄附金一角

Table with 2 columns: Subscription type and price. Includes categories like 'Annual subscription', 'Half-year subscription', and 'Quarterly subscription' with corresponding prices in yen and ryo.

時事新報

官吏と財産の關係
世の流弊に於ては、凡人情次第に薄薄なりといふ漢學者の流の常に歎息して疑ひざる所ありと雖も、我輩を以て見れば決して左様のものに非ず固より一時の變相なきに非ざれども文化の歩を進むるに共に人心も亦ますます新にして若々改良の道と進み漸く完全世界に向ふものと信せざるを得ず然るも古今官途に仕進する者の形迹を按ずれば或は我輩立言の旨に相違するものあるが如き其次第を述べんに古の人の一般に節操を尚び廉恥を重んずるの心深くして富貴の爲めは賤を屈する者おれ

谷中將の舊蹟
學習院生徒の過日長途行軍を執行したる事は前號の紙上に記し置るが今其遺蹟を聞得たるを以て爰に記さん一行が鎌倉江ノ嶋を経て將に箱根に向はんと國府津驛に達する時恰も谷中將の同所に居ると視受けしかば醫院長たりし緣故を以て一同整列して捧鉢の禮を行なひしに中將は最丁寧なる答禮を爲しつゝ歩を進めて隊前に近寄り

中野武營氏
先頃より舞里高松に歸省なし居たる東京株式取引所の中野武營氏は京坂地方を経て此の程神戶より歸京したるに就ては同所關係の人々の望に由り近日集會を開き大坂取引所并神戶新設取引所の景況等に付き中野氏の演説を乞ふ管なりと云ふ

北陸鐵道工事
先頃本紙上に記載し置る北陸鐵道工事には、前號の官報に接續するものにて富山に至る間總延長百五十七哩餘、外に津幡より越中七尾港に至る支線三十四哩餘なるが右は先年既に測量も済みたるものなれば今度愈々敷設の見込を以て發起人總代狹間正隆外兩氏は不日加能越三縣下へ出張し管なりと同工事中越前國木芽嶺を貫くは餘程困難のとされども其他は格別の難所もなく工事容易なる方なりといふ

官吏と財産の關係 (Continued)
其の如く官途仕進の風を古今相比較するに、恰も表裏反對して今日では是れ世の流弊あるものにして人情日に輕薄なるが如くなれども眼と轉じて官途の其人と見れば決して輕薄兒にあらず數千百年來日本人の教育に育せられて祖先遺傳の氣義容易に消滅す可きにあらず況して開國以來西洋文明の主義に化して獨立の氣風は多少に發達するなきを得ず即ち世は洗滌ならずして日新活潑、先人の及ばざる所の多しと斷言して可なり人々個々の資格を論じ又その實際を叩けば人情輕薄ならずして獨立の氣風に奮みながら此人々を集めて一體を成し、官途の進退如何と見るとさし往々身屈にして職ふ可死ものあるは何ぞや其だ怪しむ可きや似たれども我輩の所見を以てすれば唯是れ生計の然らしむる所なりと云はざるを得ず封建士族は世祿に衣食するが故に其官途に出身するにせざるとは家計を厚薄

千八百八十一年
米八十四萬二千七噸
千八百八十二年
米九十萬六千二百九十三噸
千八百八十三年
同九十二萬二千八百三十五噸
千八百八十四年
同八十七萬三千三百九十五噸
千八百八十五年
同七十九萬八千五百噸

瓜哇
英貨二十志
日本
同 十二志
印度
同 十一志

輸入額
之に因て觀れば一般人民の我が日本米と好や故あるなり各地米商の言ふ處に據れば日本米の需用は年月に隨ひ比例すへからざるの需用と擴張せり若し將來需用の度に超過せず尙且需用を關らしめず殊に輸入の季節を誤らす商業上正當を主とせば將來の望み甚だ大なるへし目下歐洲にて米穀需用の類は概ね八十萬乃至九十萬噸(凡我六百四十萬石)の間にあるが如し今倫敦にて取調たる統計に據れば左の如し

官吏と財産の關係 (Continued)
右の如く官途仕進の風を古今相比較するに、恰も表裏反對して今日では是れ世の流弊あるものにして人情日に輕薄なるが如くなれども眼と轉じて官途の其人と見れば決して輕薄兒にあらず數千百年來日本人の教育に育せられて祖先遺傳の氣義容易に消滅す可きにあらず況して開國以來西洋文明の主義に化して獨立の氣風は多少に發達するなきを得ず即ち世は洗滌ならずして日新活潑、先人の及ばざる所の多しと斷言して可なり人々個々の資格を論じ又その實際を叩けば人情輕薄ならずして獨立の氣風に奮みながら此人々を集めて一體を成し、官途の進退如何と見るとさし往々身屈にして職ふ可死ものあるは何ぞや其だ怪しむ可きや似たれども我輩の所見を以てすれば唯是れ生計の然らしむる所なりと云はざるを得ず封建士族は世祿に衣食するが故に其官途に出身するにせざるとは家計を厚薄

千八百八十一年
米八十四萬二千七噸
千八百八十二年
米九十萬六千二百九十三噸
千八百八十三年
同九十二萬二千八百三十五噸
千八百八十四年
同八十七萬三千三百九十五噸
千八百八十五年
同七十九萬八千五百噸